

小顔化で増えている子供の“叢生、

矯正治療を始める時期や方法は？

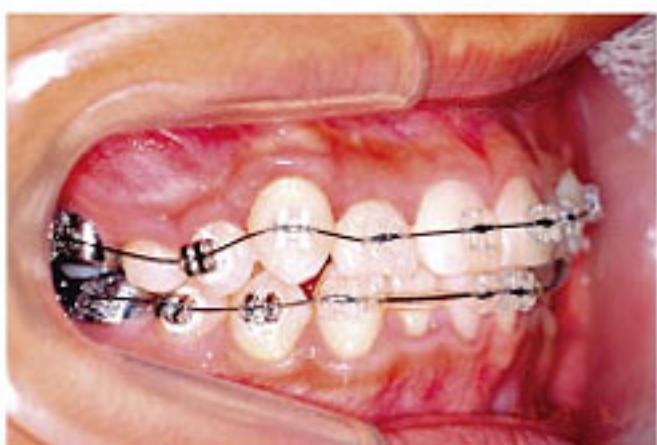
歯の健康相談



►治療開始前



同上



▶治療中の様子



►治療終了後

最近日本人に、あごの骨が小さくスマートな顔  
だちの“小顔化”が進んでいます。このため、歯  
の生える場所が不足して起こる“叢生（そうせい  
＝歯がでこぼこに生える状態）”の子供が増えて  
いるそう。親としては気になりますね。そこで、  
ほりい矯正歯科クリニックの堀井和宏さんに、子  
供の叢生治療について聞いてみました。

## 養生治療の タイミングは?

日本人の顔と頭は、幅のわりに奥行きが少ないため、あごも奥行きの少ない形になりやすいと言われています。さらに最近は食生活の変化もあって、あごが細長い子供が増加。それに伴い叢生の

症状が増えていくようですが、叢生の治療は、永久歯の数を減らす、あごの骨を広げて永久歯が並びやすいようにする、など、歯の生えるスペースの不足をどう解消するかがポイントに。治療方法は症状によりますが、一般的

歯の表面に装着する固定式なので、衛生面などの点から永久歯が生えそろってから、できるだけ短期間で治療を終えるのが理想的。ただし、叢生が歯の生え変わりを妨げる可能性がある場合や、永久歯列期の治療期間を短縮したい場合、乳歯が残っている小学校低学年から治療することも。

一方、あごが広かりにくいうことが予想される場合や、あごが広がつても歯が大きくて永久歯の抜歯が避けられない場合、治療を行わずに乳歯の生え変わりを見守ります。

観察期間をはさみ、さらに2期目の治療に9ヶ月。1期と2期の合計1年8ヶ月間、歯を動かす器具を装着して治療を終えました。上あごの第二大臼歯を抜歯しましたが、抜いた跡に親知らずが生え、丈夫な28本のかみ合わせになりました。

なのは、マルチブラケット装置と呼ばれる矯正器具の装着です。

また、歯とあごの大きさのバランスから永久歯の抜歯が必要と予想され

かけて1期目の治療を実施。上下のあごを広がりやすくなり、反対咬合で

治療法や治療に必要な期間は、患者によつて差があるので、医師と納得いくまで相談することが大切。また治療中は、器具の手入れや装着中の歯磨きなど、子供に負担がかからないよう、親が一緒になつてケアしてあげましょう。